

第3章

OUI, SI, NON

3.0. はじめに

特に会話における非動詞文のかなりの部分を、(1)~(3)のような"OUI, SI, NON"を述辞とする発話が占めている。

- (1) - C'est toi, Laurence...?
- Oui, c'est moi. (DJIAN, Ph., *Crocodiles*, p.54)
- (2) - Tu en as beaucoup?
- Non. (SAGAN, F., *Un certain sourire*, p.73)
- (3) - Ce n'est pas un peu gros?
- Si. (ANOUILH, J., *Becket*, p.100)

LEFEUVRE(1999)はこれらを、非動詞文であると認めている。その理由とされるのは、次に引用するようにこれらが何かの動詞を省略したものではないということなのだが、一方では"merci"や"merde"などの間投詞を非動詞文と認めていない。しかしこれら間投詞も動詞の省略によるものでない。"OUI, SI, NON"は確かに非動詞文であるが、LEFEUVRE(1999)のこの判断基準には疑問が残る。

« [...], nous considérons que les mots *non*, *oui*, et *si* forment une phrase averbale parce que cette réponse ne se construit pas par rapport au verbe de la question. [...]. Cet énoncé n'est pas un énoncé elliptique mais une phrase adverbiale à sujet implicite : [...]. » (LEFEUVRE, 1999, p.70)

また、"OUI, SI, NON"を"phrase adverbiale à sujet implicite"と表現する論拠も曖昧である。例えば"Intelligent!"のような非動詞文をある文脈・状況において"Pierre est intelligent!"の「省略」と解釈し、

この"Pierre"を"sujet implicite"と呼ぶというのであれば、このような意味解釈を統辞現象と決して混同すべきではないが、少なくとも主張の意図は「省略された主辞」と理解できる。しかし、そもそも主辞を必要としない"OUI, SI, NON"にまでこの種の分析をあてはめるとすれば、彼女の用いる「主辞」という用語そのものが極めて恣意的な意味解釈に過ぎないだろう。

いずれにせよ、LEFEUVRE(1999)は"OUI, SI, NON"タイプの非動詞文に対するまとまった考察は行っていない。数カ所にごく短いコメントがあるだけである。例えば、(4)の語順を逆にして(4')には出来ないという指摘がある。

(4) Me tuer! ma foi non

(4') *Ma foi non, me tuer (cités dans LEFEUVRE, 1999, p.216)

彼女によると、この現象は「主題性」の強弱と関連している。この「主題性」なる概念の如何はここでは問わない。しかし、何らかの命題的な内容に対して否定的な態度を表す性質が"non"という記号素にあることを考えれば、命題的内容を表す"me tuer"が、それに対する反応である"non"より前におかれるのはこの記号素の性質としてごく自然であり、(4)、(4')のような現象を説明するために「主題性」のような概念を持ち込む必要は必ずしもないのではないだろうか。

本章では"OUI, SI, NON"などを述辞とする非動詞文を、統辞的な観点から記述する。記述の手順は以下の通りである。1.節では"OUI, SI, NON"に定義を与える。2.節ではこれと内心構造と外心構造との関係を観察する。

3.1."OUI, SI, NON"の定義

本節では、MARTINET(1979)に従って"OUI, SI, NON"などを定義する。MARTINET(1979)によれば、これらの記号素は「節的な記号素 (monèmes propositionnels)」というクラスに属する。

« Certains monèmes s'emploient en remplacement d'une proposition tout entière. En réponse à la question *Aimez-vous les fleurs?* la réponse peut être *J'aime les fleurs* ou *Je*

n'aime pas les fleurs, mais on attend plutôt un monème unique, oui ou non. Ces monèmes peuvent donc représenter des propositions indépendantes. » (MARTINET, 1979, p.147)

すなわち、「節的な記号素」は、「節の代わりになる記号素」を意味する。

- (5) - Dans Proust, c'est la quête de tout le monde :
trouver quelqu'un avec qui partager un peu l'existence.
- C'est une interrogation pour vous?
- *Oui.* (SAGAN, F., *Répliques*, p.60)

例えば(5)の疑問文への返答の可能性としては、肯定的な反応に限っても、「c'est une interrogation pour moi」など、様々な形でありうる。これら全ての可能性の代わりとなるのが「oui」という記号素である。従って、「oui」が何を意味するかは文脈・状況や発話者の気分に全面的に委ねられている。そして、独立文の代わりとなるという点で、「oui」もまた必然的に独立文としてのステイタスをもつ。

「OUI, SI, NON」のクラスは、従属節中においても節の代わりになりうる。

« Mais on les [= monèmes propositionnels] trouve également après des subordonnants : *Je dis que OUI, Si OUI, faites-le moi savoir. Si + non est d'ailleurs figé en syntème : SINON, je m'en vais.* » (MARTINET, 1979, p.147)

例えば次の(6)においては、「oui」は「ça allait quand même」をはじめとする様々な命題内容の代わりとなっている。「que oui」が従属節に相当することは「que j'avais faim」と等位接続されていることにも暗示されている。

- (6) Il m'a demandé si « ça allait quand même ». Je lui ai dit que oui et que j'avais faim. (CAMUS, A., *L'Étranger*, p.45)
(6') *Je lui ai dit que oui, j'avais faim.
(7) Je crois que oui. (SADOUL, J., *A Christmas Carol*, p.95)

- (8) Mais non, je n'ai pas dormi! Evidemment que non!
(MANCHETTE, J.-P., *Le petit bleu de la côte Ouest*,
p.60)
- (9) J'ai peur que non, Mr Bernstein. (*A Christmas Carol*,
p.261)

独立文にもなり、従属節においても節の代わりとなる点で、"OUI, SI, NON"は「主辞-述辞」タイプのネクサスと比較的近い性格を持っているといえる。ただし、上の(6')のように"oui, j'avais faim"全体を従属節中に置くことが非常に難しいということにも注意しておこう。このことは、"OUI, SI, NON"の文としてのステイタスが動詞文のそれとは異なることを示している。

LEFEUVRE(1999)は"OUI, SI, NON"について、命題に対して「真か偽か」を表明するような副詞であると述べる。

« Il existe, en outre, des adverbes modalisateurs, qui portent le trait évaluatif vrai / faux : [...]. »
(LEFEUVRE, 1999, p.251)

この定義には、"OUI, SI, NON"が独立文としてのステイタスを持ちうるという観点が欠けている。また「真か偽か」の評価の違いが多少なりとも関わっているのは"OUI, SI, NON"三者の間の区別であって、この記号素クラスを他のクラスから区別する特徴ではない。実際、「節的な記号素」クラスで最も頻度が高いのは"OUI, SI, NON"であるのは確かだが、このクラスにはある種の副詞が入ることもある。

« Les plus fréquents sont oui, non, si. [...]. Des adverbes comme bien, exactement, précisément, des syntagmes figés comme d'accord et le syntagme verbal soit (prononcé /swat/), peuvent alterner avec oui en valeur de proposition indépendante : Tu viens demain? - D'ACCORD! Il voulait bien faire. - SOIT! » (MARTINET, 1979, p.147)

例えば(10)では"certainement"が、疑問への肯定の反応、例えば"c'est

angoissant"などの命題内容の代わりとして用いられている。

- (10) - C'est angoissant?
- *Certainement.*
(THOM, R., *Prédire n'est pas expliquer*, p.69)
- (11) - Un espace dans lequel ces deux points séparés deviennent un seul et même point?
- *Exactement.* (*Prédire n'est pas expliquer*, p.19)
- (12) - Ça ne vous paraît pas un postulat un peu facile?
- *Certes.* (*Prédire n'est pas expliquer*, p.58)
- (13) - Malgré cela, vos livres vous ressemblent?
- *Sûrement, mais je ne sais pas trop en quoi.*
(SAGAN, F., *Répliques*, p.49)
- (14) - Tu aimes mieux être heureuse et malheureuse que rien, non?
- *Évidemment, [...].*
(SAGAN, F., *Un certain sourire*, p.52)
- (15) - Sacré nom, Maxie, un schnauzer serait capable de t'égorger un boeuf...!
- *Justement.* (*Crocodiles*, pp.19-20)

節の代わりとなっているという意味で、これらの副詞は独立性が高い。ただし、頻度などから考えても、"OUI, SI, NON"ほどの安定度はないと思われる。実際、次の(16)において"sûrement"は"pas"の限定であって、"OUI, SI, NON"とは明らかに異なる。

- (16) - Tu es sûr que ce n'est pas Dieu qui se venge?
- *Sûrement pas.* (ANOUILH, J., *Becket*, p.71)
- (17) - Si tu avais été pauvre, tu n'aurais peut-être pas oublié!
- *Peut-être pas.* (*Becket*, p.13)
- (18) - Mais est-ce que des nombres très considérables vont devenir l'équivalent de l'infini?
- *Certes non!* (*Prédire n'est pas expliquer*, p.68)

"OUI, SI, NON"と交替しうるこれらの副詞が、(19)の"naturellement"の

ように従属節の代わりとなることもあるが、この位置でも "OUI, SI, NON" 程の頻度はないように思われる。

- (19) J'allais lui dire de partir, de me laisser, quand il s'est écrié tout d'un coup avec une sorte d'éclat, en se retournant vers moi : « Non, je ne peux pas vous croire. Je suis sûr q'il vous est arrivé de souhaiter une autre vie. » Je lui ai répondu que *naturellement*, mais cela n'avait pas plus d'importance que de souhaiter d'être riche, de nager très vite ou d'avoir une bouche mieux faite. (*L'Étranger*, p.181)

以上, "OUI, SI, NON" が属するクラスを「節的な記号素」と定義した。「節的な記号素」は独立文として、あるいは従属節の位置に現れうる。言い換えれば、機能辞(従属接続詞)によって自律化されるという、階層化の可能性をもつ。"OUI, SI, NON" はこのクラスの代表的な記号素である。

3.2. "OUI, SI, NON" と内心構造・外心構造

前節で述べたように, "OUI, SI, NON" という記号素は文の核(述辞)としての性格を持つ。つまりそれらは発話において「そこにあるだけ」であり、明確な統辞機能を持たない。従って内心構造をなすか、外心構造をなすかを論ずることは原理的に難しい。

"OUI, SI, NON" が(20)のように単独で用いられる場合、それは内心構造でも外心構造でもない。一まとまりであるという意味では内心構造的なのだが、記号素が一つあるだけで、そこに統辞関係はないからである。

- (20) - Avez-vous peur de vieillir?
- Non. Je n'y pense pas encore. (*Répliques*, p.119)

この点は, "OUI, SI, NON" が従属節の代わりとなるような場合でも同様である。(21)の"non"そのものは内心構造でも外心構造でもない。内心構造であるのは「自律化関係」である"que non"である¹⁾。

- (21) *Mais je t'ai déjà dit que non!* (AUBERT, B., *Le Couturier de la Mort*, p.166)

独立文としての"OUI, SI, NON"に副詞(句)がつけ加えられることがある。
例えば, (22)の"non"には"certes"がつけ加えられている。

- (22) - *Mais est-ce que des nombres très considérables vont devenir l'équivalent de l'infini?*
- *Certes non!* (*Prédire n'est pas expliquer*, p.68)

次のように「間投詞」が付け加わることもある。通常「間投詞」は他の記号素を限定しないので, これは間投詞からの「転移」だと考えられる。

- (23) *Ben putain non alors!* (MANCHETTE, J.-P., *Morgue pleine*, p.34)
(24) *Ben oui, fallait en acheter, Laurie chéri...* (AUBERT, B., *La morsure des ténèbres*, p.108)
(25) - *Tu n'es pas un raté.*
- *Foutre si.* (MANCHETTE et BASTID, *Laissez bronzer les cadavres!*, p.162)

"OUI, SI, NON"に"mais"がつけ加えられるのも, しばしば見られる現象である。

- (26) *Mais oui, mais oui.* (MANCHETTE, J.-P., *Que d'os!*, p.192)
(27) *Mais non, tout va bien.* (SADOUL, J., *A Christmas Carol*, p.61)
(28) *Mais si, je vais le réaliser, ton vœu!* (KING, S., *Un tour sur le Bolid'*, p.21)

MARTINET(1979)はこれを「"mais"による限定」とする。

« On trouve une détermination adverbiale dans *mais oui, mais non.* » (MARTINET, 1979, p.147)

しかしこれはいわゆる「限定」ではないと思われる。第一に"mais oui"などは連辞素である。また、"mais oui"などは"oui"のように従属節の代わりとならない。この点で"mais oui"は、「非統辞的(asyntaxique)」と定義される「間投詞」に似ている。少なくともそこでは、"OUI, SI, NON"と「間投詞」との区別が曖昧となっている。つまり、"mais"をつけ加えることは"OUI, SI, NON"と発話の残りの部分との関係を大きく変えているのである。この件に関しては第19章で詳述する。「限定」でないのは、(22)の副詞の付加や、(23)~(25)のような間投詞の付加に関しても同様で、これらの場合"OUI, SI, NON"の性質そのものが変わっているのであるから、それが内心構造であるか外心構造であるかを論じるのは困難である。ただし、"OUI, SI, NON"に何らかの付加があるときには独立文の核以外の位置には現れにくく、その意味では独立性が強調されているということと言えるだろう。

次のように"OUI, SI, NON"が副詞(句)と並置されることがある。

- (29) - Pensez-vous que la solitude soit la même chez les hommes et les femmes?
- *Oui, absolument.* (Répliques, p.97)
- (30) - Avez-vous peur de la solitude?
- *Non, pas du tout.* (Répliques, p.95)
- (31) - La lucidité est-elle indispensable pour écrire?
- *Oui, tout à fait.* (Répliques, p.49)
- (32) - Etes-vous contente de votre vie?
- *Oui, le plus souvent.* (Répliques, p.14)
- (33) - Lorsque vous écrivez, le livre vous suit-il dans la rue?
- *Oui, de plus en plus, et je deviens assommante pendant six mois.* (Répliques, p.36)
- (34) - Vous êtes ainsi parti de la géométrie..
- *Oui, essentiellement.* (Prédire n'est pas expliquer, p.11)

これらの副詞(句)の独立性は"OUI, SI, NON"に比べると必ずしも高くないと

思われるが, "OUI, SI, NON"の存在の影響で独立性がより高くなっている。例えば"oui"と"absolument"はそれぞれ単独で疑問文への答えとなりうるが, (29)などの場合, 並置されることである程度一体化している。つまりこれは弱い「等位関係」であり, その意味では内心構造的であると考えられる。しかし一方, "oui, absolument"などの連辞はそれ自体が述辞であり, 統辞行動しているわけではない。その意味では外心構造的でもある。

"OUI, SI, NON"が, (35)のようにある種の「限定」を受ける場合も同様である。(35)の場合, "moi"は"oui"の意味的な有効範囲を示しているが, "oui"のここでのステイタスには影響を与えない。"moi"単独では述辞になりにくく, これは"oui"の拡張であると考えられる。"moi, oui"全体でまとまって述辞となっているという意味では内心構造的である。また一方, これらが述辞であり統辞行動するわけではないという点では外心構造的である。

- (35) - Nancy n'avait pas changé. *Moi, oui.* (DATLOW, E., éd., *Contes du chat pervers*, p.204)

以下(36)~(42)にも同じことが言えよう。限定の存在がこれらに外心構造的な性格を与えて, 文の核としてのステイタスをより明示化しているとも言えるかもしれない。

- (36) - L'ennui, c'est qu'il nous a vus.
- *Moi, oui, mais toi, il ne t'a vu qu'en jeune étudiante.* (DELACORTA, *Lola*, p.71)
- (37) - Pour vous, Proust, ce sont plus les gens que le milieu?
- *Les gens, oui.* (*Répliques*, p.60)
- (38) - Avez-vous rêvé d'un amour éternel?
- *Quand j'avais quatorze ans, oui. Plus tard, non, [...].* (*Répliques*, p.102)
- (39) *Je ne me suis jamais imaginée n'écrivant pas. Mais ne travaillant pas, oui, très bien.* (*Répliques*, p.122)
- (40) - Travaillez-vous quotidiennement?
- *Oui, quand le livre est lancé.* (*Répliques*, p.39)

- (41) - Est-ce vrai également des sciences?
 - *En un certain sens, oui. (Prédire n'est pas expliquer, p.59)*
- (42) - Pour que l'analogie fonctionne, il faudrait qu'une fois mort, on puisse réapparaître..
 - *Pour qu'elle fonctionne de manière circulaire, oui. (Prédire n'est pas expliquer, p.76)*

1.節で"sûrement"や"exactement"などの「節的な記号素」としての性格に言及したが、これらがこの性格をもちながら(35)~(42)のような限定を受けることは、"OUI, SI, NON"の場合ほど多くはない。この傾向以外は基本的に"OUI, SI, NON"の性質に準ずると考えてよい。

以上、本節では"OUI, SI, NON"を代表とする「節的な記号素」と、内心構造・外心構造との関係を観察した。"OUI, SI, NON"は単独で述辞となる、従って積極的な統辞機能を持たない記号素であるため、内心構造であるか、外心構造であるかを論じにくい。ただし、(35)~(42)のような外心構造に似た形式をとることで、独立文としてのステイタスを強調することはあると考えられる。

3.3. まとめ

本章では"OUI, SI, NON"を代表とする「節的な記号素」を観察した。これは独立文として、あるいは従属節の位置に現れる。従って独立的な記号素であり、それ自体は積極的な統辞行動を担わない。そのため、内心構造であるか外心構造であるかは観点による。単独の場合は内心とも外心とも言えない。限定があるとき、全体が述辞としてまとまっているという意味では内心構造的である。しかし、"OUI, SI, NON"そのものが明確な統辞機能を担っていないのだから、その統辞行動の性質を論じることも難しい。つまりこのクラスの記号素は単独で、動詞文における「主辞-述辞」のステイタスに匹敵するが、その意味では外心構造的な側面をもつ。このような曖昧さがあること自体、「主辞-述辞」タイプの明確な外心構造をもつ動詞文とは大きく異なっていると考えられる。つまるところ、"OUI, SI, NON"では構造よりも記号素の語彙的な特性が前面にでてくるのである。

非動詞文の多くは従属節中に現れにくい、つまり階層化を拒否する傾向をもつと考えられる²⁾。LEFEUVRE(1999)にも同様の指摘がある。

« En ce qui concerne la subordination, la phrase averbale n'accepte pas facilement le changement en sous-phrase averbale. Ainsi, l'énoncé : *Traversée interdite* ne peut pas se transformer en : **Je pense que traversée interdite.*
» (LEFEVRE, 1999, p.47)

一般には、非動詞文が従属的な位置に来にくいということと、文としての独立性が高いということとは表裏一体の関係にある。動詞文の独立性は基本的には階層化(機能辞による自律化の可能性)を含意している。それに対して非動詞文の多くは、階層化の可能性をいわば犠牲にすることで独立性を得るからである。ところが"OUI, SI, NON"は従属節中に問題なく現れ、階層化を含意した独立性という性格を動詞文と共有している。階層化可能であるのは他のタイプの非動詞文に対する際だった特徴であり、間投詞と"OUI, SI, NON"とを区別する最も明確な特色でもある。このことはまた、非動詞文全般にある種の間投詞的な性質が関与している可能性を示唆してもいる。